

「経営者×若者 対話会」



若者 20～30代

考え方はさまざま。
若者も同じ。当たり前前することに気づかされました。

経営者の一人から「あと何年、今の職場にいますか？」と質問が飛び、手の高さでその年数を表現した時の写真

目的

令和8年4月に第1案を作成予定の「未来の求人票」
各社の「未来の求人票」が地域の未来の担い手である”若者”の価値観とギャップがないか、そのギャップを可視化し、吸収することで、未来の求人票の作成に活かすヒントを得るため、対話会を開催しました。

日時・場所

日時：令和8年2月5日（木）13：15～16：00
場所：株式会社徳留（日置市伊集院町清藤2460番地）

ゲスト

日置市外の企業で働く20～30代の8人（男性3人、女性5人）
選定基準：今の会社で”いきいき”と働き、やりがいを持ち、今の会社で働くことの意義を感じている方
職種：IT、情報通信業、観光業、卸・小売業

企業

参加企業数：17社27人参加（6社欠席）
※今回の対話会から以下の2社が新規参画
株式会社南日本銀行 ／ 株式会社吹上浜の未来を考える漁業者たち



対話会の流れ

13:15～13:45 会社見学

設立総会時のアンケートで「他社見学したい！」とのお声をいただき、初めての試みとなる企業社屋での開催となりました。
対話会の前に、まずは『株式会社徳留』様の社屋・工場を見学。徳留竜郎社長自らがマイクを握り、会社概要や求人用動画の説明を丁寧に語ってくださる姿がとても印象的でした。社長から会社概要ご説明後は社屋・現場見学へ。
他業種の工場に入る機会や珍しいようで「異業種の会社に入ることが無いので楽しかった！」とのお声もいただきました。広々とした社屋、最新機材が揃った大会議室（会場）



会場を提供していただいた㈱徳留社屋

14:00～15:00 全体ディスカッション

第1部となる全体ディスカッションでは、デジタルのツールを使い「経営者が予想する若者像」と「若者の本音」のズレを可視化しながら対話しました。
テーマは会社に入る前と入った後。
しかし、見えてきたのは世代間のギャップではなく、ただただ純粋に自分と向き合い、自分の居場所を考え選ぶ、自分の価値を客観視できる若者でした。



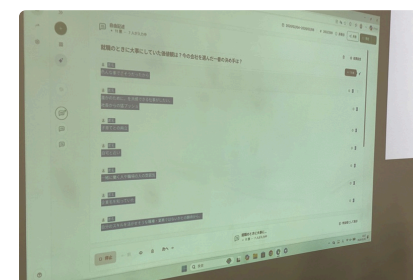
会社説明をしてくださる徳留社長

ゲストの話に聞き入っていた時にパッと明るい笑いとお腹に包まれたのは、あるゲストが「尊敬できる先輩がいる、だから追いつくために必死です！そんな環境では指示に「はい、か、yes」しか回答はありません笑！」と答えたときです。
そんな風にすがすがしい覚悟を口にして、正直今の時代には珍しいと思われがちな上昇志向をストレートに表現する姿に、経営者の皆さんも「まだこんな熱い若者がいたのか」とどこかうれしそうな表情を浮かべていました。



各会社自己紹介

一方で、「辞める理由がないから、長く勤められるんです」という静かな言葉に、ハッとさせられる場面もありました。残業がなく、人間関係が安定していて給与もまあ良しという「当たり前」の大切さ。それは、常に新しい刺激を与え続けなければ若者は入らないと構えていた企業側にとって、とても大切な気づきとなったようです。



今回初の試み“Slido”で価値観の可視化

「好きな歴史を仕事にしたい。だから今の会社。もし担当を外れたらきっぱり辞めます」と言い切るゲストもありました。会社への愛着ではなく人生の目的を何よりも大切にする。

そんなゲスト8人の言葉に触れ、いつのまにか参加者全員が前のめりに。話を経営者の皆さんの心にある「最近の若者は……」、という一括りのイメージが、変わり始めた空気を感じました。



答えは“yes”か“はい”で会場は和やかに



対話会の流れ

15:10～15:50 グループディスカッション

第2部となるグループディスカッションでは、経営者が話をしたいゲストを決め、そのゲストが先に座っているグループに入り第1部の話をさらに深堀り。気になるフレーズや「未来の求人票」の作成のヒントになりそうな言葉をワークシートに埋めながらあっという間のグループディスカッションになりました。最後は、経営者からゲストへの全体フィードバック。

「万人受けはしなくていい。会社の色をしっかり出して、マッチする人に届けることが大事だと気づかせてもらった」

「考え方はさまざま。若者も同じ。当たり前のことに気づかされました。」

初の対話会は当たり前のことに気づきつつも、未来の求人票作成へヒントが見えた、学びの時間になりました。



聞きたいゲストの席へ



全体ディスカッションの回答をもとに深堀り

14:00～15:00 全体統括



コンソーシアムが設立して初めての集まり。今後の活動に手ごたえを感じた。職場でも若い方はいるが、こんな場でないと聞くことはできない。きっとみなさんもそうでは。今日の気づき：8人のゲストは、入社前にチャレンジ・成長、人間関係・給与の良さ、希望職種で会社を選んでいった。しかし、入社するとそこからは8人8様。会社の寄り添い方が働きがいにつながっている。この入社前（入口）部分は我々が作れる部分。我々がターゲットを決める。自社の色を決める。今後の展望が見えた良い機会となった。

対話会の一コマ



それぞれの問いにフリップで回答するゲスト



休憩時はみんな名刺交換

「経営者×若者 対話会」

参加者の感想

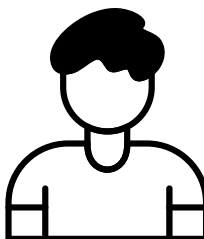
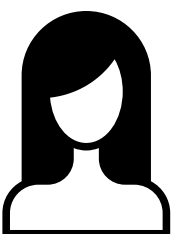
「当初は世代間の価値観のズレを懸念していましたが、対話を通じて若者の合理的で多様な思考に腹落ちしました。地方就職の決め手は条件よりも『働く人の姿』にあるのかもしれませんが。話をした方は、企業の理念や自身の学びを喜々として語る先輩や社長の輝きに惹かれ、一本釣りされるように入社を決めていました。日置市の規模感では、万人受けを狙うより、特定の一人に深く刺さる、濃い情報発信こそが採用の核心になると確信しました。」



「ありがとうございました！直に、私たちが抱える問題の対象の方々にお話を聞くことができたことはとても貴重でした。自社の同じ世代の人たちに同じ質問をして、果たして正直に答えてくれるのか？と思うと、本当にいい機会だったと思っています。次回の対話会も楽しみです、今回で少し方向性が見えてきましたので、更なる情報収集のため、こちら側も準備が進められそうです。」

ゲストの声

「素敵な対話会に参加できる貴重な機会をいただきありがとうございました。社外の方々の仕事に対する価値観やキャリアについて、深堀りしてお話を聞くことができ、また、他の会社の雰囲気を知ることができ、仕事に対する向き合い方をもう一度見つめなおす時間をいただけました。」



「同世代で活躍されている方々の意見を伺えたことは多くの気づきにつながり、私自身の働く環境を俯瞰的に見つめ直す良い機会となりました。さらに、各地域や企業が抱える人材不足の課題が今後ますます深刻化する中、官民が連携して取り組む今回の企画は、非常に魅力的であり大きな可能性を感じました。併せて、わが社においても、離職率低減に向けた育成・指導のヒントを得ることができたと思っています。」